

成人おめでとー

式典、今年も明治神宮で

成人の日の一月十五日、町では昭和三十三年に生まれた町内在住の男子一〇〇人、女子九一人の門出を祝って、今年も明治神宮で成人式を行いました。

この日参加した成人者一〇二人(男五六、女四六)は、午前八時、三台のバスに分乗して役場前広場を出発、一路東京に向いました。午前十一時、明治神宮に到着した一行は、厳肅に昇殿、参拝した後、町長、議会議長、その他先輩の方がたからお祝いのことばをいただき、最後に成人者を代表して山田高広さん(東町一)が力強く

誓いの言葉をのべて式典を終りました。

この後、昼食を済ませ、NHKホールで行われた青年の主張全国大会を視聴。各地区代表者の熱弁や人気歌手の余興に、成人者一行は感動した面持ちで聞き入っていました。

午後四時過ぎ、一行は同ホールを出て帰路につきましたが、参加した成人者一人ひとり、この一日を成人としての出発点としてそれぞれ社会人としての自覚を強められたことでしょう。



▲ 成人者代表の力強い挨拶 (明治神宮内苑で)

成人として社会的に認められる立場となったわけですが、このことは、社会において自分の行動に責任を持ち、自分自身の自覚を持って生活していかなければならないということでもあります。

今、私は成人を迎えて、自分の将来についていろいろな

と考えようとしています。しかし、思えば今の私があるのは、不思議な感じさえしてくるのです。というのは、昭和四十五年十一月二十日の出来事でした。

一月十五日、僕は成人式を迎えました。成人式について、僕はこんな考えを持っています。一般的にみて、最近はこのような国の行事だからといって、特別何かをするということも少なくなりました。

若者の中には、成人式に参加することに反感に似たものまで持っていて、特別あんな式に出席するのは馬鹿／＼しい」と言っている者もいます。

僕もそのような感情を少くとも



思いやりを大切に

伊藤ひろみ(姥山・学生)

です。そのことを思うと、人間の運命の不思議さや人々のつながりの大切さ、ということを強く考え感謝しないではいられない気持ちになります。

もある程度は持っていますが、成人式といえば僕達が直接対象となつて行なわれるので、参加して記念となる日にしたいです。そして、家族、知人、町の方がたがお祝いしてくれるものです。

成人式を励みとして

鈴木敏彦(上町第二・公務員)

成人式を迎えた人達は、素直に喜び、感謝してもらいたいものです。しかし、人それぞれ人生にある区切りというものがあるはずで、それはこの日を境にして変るとい

人生二十年が過ぎ、大人の仲間入りをした今、私は人間としてのつながりや思いやりを大切に、よりよい社会をつくるために、一個の小さな力ではありますが、一杯頑張っていきたいと考えます。



しかし、成人式を励みとして、まだまだ世間も知らず、とても未熟な僕ですが、自分なりの責任というものを自覚し、何かにぶつかって、失敗を繰返して、本当に少しづつでも進歩していきたいと思えます。

